

札幌市立白楊幼稚園の取組【読書：図書館活用授業】

1 研究のねらい

本園の絵本コーナーには約 1000 冊の蔵書があり、園児が自由に絵本を読むことができる。園児は遊びの一つとして絵本を読んだり興味のあることを調べたりしている。しかし、利用する園児や選択する絵本の種類が偏りがちになる様子も見られる。

本園では、園での生活や遊びを通して大切にしていることや育みたい幼児像を保護者と共有し、共に子育てをする関係を築いていきたいと考えている。絵本に関しては、各学年で育ちに合った絵本を選択したり、有志の保護者で長年実施している『絵本ママ』の活動も絵本への保護者の関心を高めたりして、園と家庭が連携してより絵本に親しむための環境づくりを推進したいと考えている。

2 取組内容

(1) 絵本の環境 幼児の姿

① 魅力ある絵本コーナー～レイアウトの工夫～

本園では、いつでも身近な場所に絵本や幼児用図書があり、読みたいときに手に取ってすぐに読むことができる環境を作っている。各学級では一日一回は学級活動として積極的に絵本の読み聞かせや紙芝居、エプロンシアターなどを行い、お話を聞く楽しさが味わえるように努めている。教師が読んだ絵本は幼児がすぐに手にすることができ、目に触れやすい場所に置くようにすることで繰り返し絵本を楽しむ姿が見られた。また、季節の絵本など教師が幼児に読んでほしい絵本を掲示することで園児は興味をもち、絵本に親しむ姿が見られる。



絵本コーナーは、幼児の動線などを考え落ち着いてじっくりと見ることのできる少し奥まった場所にソファやクッションなどを置き、ゆったりと絵本を読める環境にしている。

② 絵本の世界で遊ぶ。興味をもったことを調べる。

教師や友達と様々な絵本や物語、紙芝居などに親しむ中で自分なりにイメージしたり登場人物になりきって遊んだりするなど、お話しの世界に浸ることが幼児期には大切な体験である。

年中児は学級で繰り返し親しんだ『はらぺこあおむし』がきっかけとなり、青虫の食べるものを描く、チョウチョの羽を作る、青虫、サナギ、チョウチョになりきって動くなど『はらぺこあおむし』の世界に入りこみ、イメージを膨らませて表現することを楽しんだ。



年長児は園庭や砂場で穴掘りをした時に出てきた石を「これは化石かもしれない。」と興味をもつ幼児がいたので、教師が図鑑を提示したところ、園児からは「この石じゃないか。」「いや、こっちではないか。」など話し合う姿が見られた。こういった経験や新たな図鑑を手に取りやすい場所に置いたりすることで自ら図鑑を手にし、園庭の蛾の幼虫の種類を調べたり、捕まえた虫につ

いて調べ話題にするなど幼児同士のつながりが増えていた。

(2) 保護者、地域との連携

① 保護者による絵本の貸し出し。『絵本ママ』による読み聞かせ。

幼児は絵本に親しむ経験が大切であることから、PTA 活動の一環として月に 1 回絵本を貸し出し、親子で絵本の楽しさを味わえるようにしている。

また、本園でずっと引き継がれているボランティアによる読み聞かせ『絵本ママ』の活動は、月に一回程度行われている。拍子木を合図に子どもたちが集まると、読み聞かせの始まり。子どもたちは絵本の世界に引き込まれていき、穏やかな時間が流れる。後半の子ども自身が選んだ本を読んでもらう時、子どもと大人が体を寄せ合って絵本を囲み、お互いがぬくもりを感じる嬉しい時間となっている。



② 地域との連携など

隣接の白楊小学校の絵本読みきかせボランティア『ブックママ』の方に“お楽しみ”として毎年一回読み聞かせをしてもらっている。今年度は大型紙芝居『孫悟空』を見せてもらった。茶碗や砂などを使った効果音などにも幼児は興味をもち、お話を楽しんでいた。



未就学児の遊びの広場『ポロップ広場』では講師を招き『絵本がもっと好きになる。』というテーマで子育て講座を行った。絵本の読み聞かせを通して、親子でのコミュニケーションが豊かになること、子どもの心が育つことを具体的にお話してくださった。今後、どのように絵本を選んだり読み聞かせをしたりするとよいか、保護者にとっては指針になったものと感じる。

3 成果と課題

(1) 成果

絵本を手に取りやすい環境の工夫やゆったりと過ごしやすい雰囲気をつくることで、絵本をじっくりと楽しむ園児の姿が多くなった。

幼児が絵本の世界に浸り、イメージの中で楽しんだり友達と共感し合ったりなど、絵本を通して遊びが豊かになるための教師の関わりや幼児の姿について確認し、保育に生かすことができた。

子育て講座では、幼児期だからこそ親子で絵本を読む大切さについて発信することができた。

(2) 課題

一人一人の幼児の実態を考慮し、絵本に親しむことができるよう、落ち着いた雰囲気の中で読み聞かせを行い、余韻を楽しめるようにしたりしていくなど、環境の構成や教師の関わり方を工夫していく。

保護者には、たよりやHPなどで、各学年で、その時期に取り上げた絵本の情報を積極的に発信したり、引き続き、幼児期に大切にしたい絵本とのかかわりなどを伝えたりしていく。